

所蔵作品展 近代工芸の名品  
[特集展示] <sup>なつめ</sup> 棗にまつわるエトセトラ

Masterpieces of Modern Crafts from the Museum Collection  
Special Display: Modern Tea Caddies

2018年12月21日 [金] - 2019年2月11日 [月・祝]

人間国宝のなつめ、すべてみせます



<sup>なつめ</sup>  
「棗」は、茶道具のひとつで、抹茶を入れる木製漆塗の蓋物容器です。そのかたちが、クロウメモドキ科の落葉高木・ナツメの実に似ていることから呼称です。もともとは、ナツメの実のかたちの茶器のみを意味していましたが、侘び茶の発展とともに、塗り物茶器全般を指す言葉として定着しました。

千利休の時代から、実に様々な棗が生み出されてきましたが、実用と美の融合という工芸ならではの難しさが多くの作り手を触発する  
のででしょうか、漆芸家・増村益城をはじめとする近現代の工芸作家たちも果敢に新たな棗の制作に取り組んでいます。

掌の中におさまる限られたサイズながら、無限とも思われるかたちのバリエーション、装飾の豊かさ、制約のなかにある愉しさなど、本展が作家の美意識を反映した近代棗の魅力を発見していただく機会となれば幸いです。

図版No.1

「所蔵作品展 近代工芸の名品- [特集展示] 棗にまつわるエトセトラ」  
メインビジュアル

本展のポイント

- 本展では、「<sup>なつめ</sup>棗」を特集展示します。かたち、構造、製法、装飾など、さまざまな角度からアプローチします。所蔵作品の棗を一堂に展示するのは開館以来初めてです。（全3室使用）
- 重要無形文化財保持者(人間国宝)から近現代の工芸作家までの当館所蔵作品約100点で構成します。
- 特集展示の棗のほか、陶磁、ガラス、染織、金作品など、近代工芸の名品もあわせて展示します。
- 当館研究員、工芸史家によるトークイベントを開催します。
- 本展は、きものでご来館のお客様に割引特典をご用意します。

## なつめ ① 棗とは？

棗は、茶道具のひとつで、抹茶を入れる木製漆塗の蓋物容器です。そのかたちが、植物のナツメの実に似ていることから、この呼称がついたといわれています。もともとは、ナツメの実のかたちをした茶器のみを意味していましたが、侘び茶の発展とともに、塗物茶器全般を指す言葉として定着しました。

## ② かたち・構造・装飾

### かたち

ナツメの実に似たかたちをした「棗」は、<sup>たけのじょうおう</sup>武野紹鷗（1502-55）の創出といわれ、その出現は室町時代後期のことです。

それ以前は仕覆をかけた茶入を入れる容器である挽家や、挽溜用の茶桶が転用されていましたが、<sup>ひきや ひきだめ さつう</sup>侘び茶を押し進めた紹鷗や千利休（1522-91）の時代には、専門の塗師にそれぞれの茶人が好んだ「好形」に作らせて使うようになりました。

### 構造

もともと薬器から派生したと考えられる棗は、中に入れる薬や茶が湿気ないように工夫された、<sup>いんろうふたづくり</sup>印籠蓋造となっています。これは、身の内側の立ち上がりをも高くして、身と蓋が隙間なく合うようにすることで、密閉性を高めたものです。

### 装飾

和製の塗り物茶器を重んじる侘び茶の興隆ともあいまって、さまざまな棗が生み出されてきましたが、そのバリエーションは、塗りの工程の次にくる加飾の技法でさらに増すことになります。



図版No.2  
松田権六《鴛鴦蒔絵棗》1945年

## ③ 人間国宝から民藝まで一近代の創作なつめ



図版No.3  
音丸耕堂《彫漆薺文茶入》1959年頃



図版No.4  
黒田辰秋《白檀塗四稜茶器》1975年頃



図版No.5  
黒田辰秋《螺鈿大名縞茶器》制作年不詳



図版No.6  
田口義明《蒔絵棗 金魚》2004年

## ④ 近年の研究成果一挙公開！

見どころ！ 人間国宝・松田権六の資料と作品

<sup>まつだごんろく</sup>蒔絵師・松田権六の工房には、棗にまつわる制作資料や道具が多数残されていました。今回はそのなかから作品の成立にかかわる近年の研究成果を紹介します。



図版No.7  
松田権六《蒔絵松桜文棗》1969年

## ⑤ 近代工芸の名品も併せて展示します

特集展示の棗のほか、陶磁、ガラス、染織、金工作品を展示します。  
茶道具や着物など、「和の空間」をお楽しみください。



図版No.8  
十五代樂吉左衛門《黒茶碗 月華千峰》1990年



図版No.9  
三浦小平二《青磁飾り壺》1989年

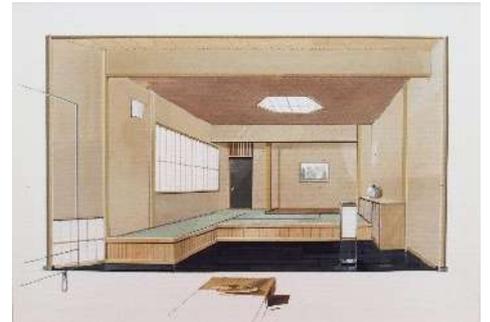


図版No.10  
森口華弘《麗光縮緬地友禅訪問着 梅林》1957年



図版No.11  
黒田辰秋《螺鈿亥字香盒》1935年

来年2019年の干支である亥を  
モチーフとした、  
黒田辰秋の作品を展示します。



谷口吉郎設計による展示和室  
参考図版

## ⑥ 和装来場者に観覧料割引を実施

きもので来館された方に向けた特別割引を実施します。  
きもの割引観覧料：一般観覧料250円→200円

### ■東京国立近代美術館工芸館について

工芸館は、日本で最初の国立美術館である東京国立近代美術館の分館として、建築家・谷口吉郎が改修を手がけ、昭和52(1977)年に開館しました。総数約3,800点(平成30年3月31日現在)を収蔵し、近現代の工芸およびデザイン作品を全般にわたって幅広く収集をおこなっています。工芸館の赤レンガの建物は、明治43(1910)年に建てられた旧近衛師団司令部庁舎を保存活用したもので、現在、重要文化財に指定されています。2020年、石川県金沢市へ移転予定。



## 開催概要

展覧会名(日)	所蔵作品展 近代工芸の名品-[特集展示] 棗にまつわるエトセトラ
展覧会名(英)	Masterpieces of Modern Crafts from the Museum Collection-Special Display: Modern Tea Caddies
会期	2018年12月21日[金]-2019年2月11日[月・祝]
会場	東京国立近代美術館工芸館 (千代田区北の丸公園・竹橋) 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1
主催	東京国立近代美術館
開館時間	午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(12/24、1/14、2/11は開館)、12/25[火]、年末年始(12/28[金]-2019/1/1[火・祝])、1/15[火]
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分
観覧料	一般250円(200円) 大学生130円(60円)  高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、友の会、賛助会員(同伴者1名まで)、MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバー会員は本人のみ)、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。  * ( ) 内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 * 割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、会員証、社員証、障害者手帳をご提示ください。  きもの割引観覧料: 一般観覧料 250円⇒200円  <b>無料観覧日: 2019年1月2日(水)、1月6日(日)、2月3日(日)</b>
イベント	●ギャラリートーク 各日14時から 2018年12月23日(日・祝) 当館研究員 2019年1月27日(日) 諸山正則氏(工芸史家) 申込不要・参加無料(要当日観覧券)。  ●会期中 水・土曜日 タッチ&トーク 14時から約60分 工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム。作品を実際にさわりながら鑑賞できるくさわってみようコーナーと会場トークの2部構成で、さまざまな角度から展覧会の見どころを紹介します。 申込不要・参加無料(要当日観覧券)。  ※2019年1月2日(水)はタッチ&トークをお休みします。

報道関係の方の  
お問合せ先

## 東京国立近代美術館工芸館

展覧会担当/北村、内藤 広報担当/島田

Tel: 03-3211-7781 (工芸課直通) E-mail: koge-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

http://www.momat.go.jp

## 広報用図版 請求票

FAX: 03-3211-7783(工芸課) 広報担当 行

発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品
	1	「所蔵作品展 近代工芸の名品-[特集展示] 棗にまつわるエトセトラ」メインビジュアル
	2	松田権六《鴛鴦蒔絵棗》1945年
	3	音丸耕堂《彫漆薺文茶入》1959年頃
	4	黒田辰秋《白檀塗四稜茶器》1975年頃
	5	黒田辰秋《螺鈿大名縞茶器》制作年不詳
	6	田口義明《蒔絵棗 金魚》2004年
	7	松田権六《蒔絵松桜文棗》1969年
	8	十五代樂吉左衛門《黒茶碗 月華千峰》1990年
	9	三浦小平二《青磁飾り壺》1989年
	10	森口華弘《麗光縮緬地友禅訪問着 梅林》1957年
	11	黒田辰秋《螺鈿亥字香盒》1935年

※上記作品はすべて、東京国立近代美術館蔵

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXまたはメールでお送りください。
- ・図版はJPEGデータをご用意しています。使用する場合は、指定されたクレジットを併記してください。
- ・図版は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、文字のせは無断で行わないでください。
- ・展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。(Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい)

御芳名

貴社名

出版物・放送番組・webサイト名など(発行日等):

URL <http://www.>

TEL

FAX

E-MAIL

\* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意しております。

プレゼント用招待券を 希望する( 5 組 10 枚 ) / 希望しない

招待券送付先: 〒

報道関係のお問合せ先

東京国立近代美術館工芸館 広報担当/島田

TEL: 03-3211-7781(工芸課直通) FAX: 03-3211-7783

E-mail: kogeipr@momat.go.jp 公式HP: <http://www.momat.go.jp>